

第 2 章 生命保険・損害保険

問題 1

医療保険(下記〈資料〉参考)の保障内容に関する次の記述の空欄(ア)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、Nさんはこれまでに〈資料〉の保険から保険金および給付金を一度も受取っていないものとする。

〈資料〉 保険証券(一部抜粋)

保険種類 ; 終身医療保険

保険契約者 ; N 様

被保険者 ; N 様

契約内容

入院給付金 ; 日額 10,000 円

* 病気やケガで 1 日以上継続入院のとき、入院開始日からその日を含めて 1 日目から支払います。

* 同一事由の 1 回の入院給付金支払限度は 60 日、通算して 1,000 日となります。

手術給付金 ; 給付金額 入院給付金日額 × 10 ・ 20 ・ 40 倍

* 所定の手術を受けた場合、手術の種類に応じて(入院給付金日額の 10 倍 ・ 20 倍 ・ 40 倍)手術給付金を支払います。

死亡・高度障害保険金 ; 1,000,000 円

* 死亡または所定の高度障害状態となった場合に支払います。

Nさんが、令和×2年中にガン(悪性新生物)と診断され、その後 30 日間入院し、給付倍率 20 倍の手術(1 回)を受けた場合、支払われる給付金は、合計(ア)である。

- 1) 400,000 円
- 2) 500,000 円
- 3) 700,000 円

問題 2

下記の生命保険契約 A～C について、保険金・給付金が支払われた場合の課税関係に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

<生命保険の加入状況>

	保険種類	保険料 払込方法	保険契約者 (保険料負担者)	被保険者	死亡保険金 受取人	満期保険金 受取人
契約A	養老保険	年払い	妻	夫	妻	妻
契約B	終身保険	月払い	夫	夫	妻	—
契約C	医療保険	月払い	妻	妻	夫	—

- 1) 契約 A について、妻が受取った満期保険金は、贈与税の課税対象となる。
- 2) 契約 B について、妻が受取った死亡保険金は、相続税の課税対象となる。
- 3) 契約 C について、妻が受取った入院給付金は、雑所得として所得税・住民税の課税対象となる。

問題 3

Fさんが契約している普通傷害保険の主な内容は、下記<資料>のとおりである。次の1～3のケース(該当者はFさんである)のうち、保険金の支払い対象となるケースはどれか。なお、1～3のケースはいずれも保険期間中に発生したものである。また、<資料>に記載のない事項については一切考慮しないこととする。

<資料>

保険契約	普通傷害保険
保健期間	1年間
保険契約者	Fさん
被保険者	Fさん
死亡・後遺障害保険金額	10,000万円
入院保険金日額	10,000円
通院保険金日額	5,000円

※特約は付帯されていない。

- 1) 地震により落ちてきた屋根瓦が頭に当たり、ケガをして通院した。
- 2) 虫垂炎になり、治療のため入院した。
- 3) ハイキングに行った際に転んでケガをし、破傷風に感染したため、入院した。

問題 4

次の設例と条件にもとづいて、A さんが現時点で死亡した場合の必要保障額を試算し、適切なものを選びなさい。

<設例>

会社員の A さん(55 歳)は、専業主婦である妻 B さん(50 歳)、長女 C さん(20 歳)および長男 D さん(18 歳)の 4 人家族である。A さんは、現在加入している生命保険が来年更新を迎えるため、生命保険の見直しについて検討している。

<条件>

- ① 現在の日常生活費は月額 30 万円であり、A さん死亡後から長男 D さんが 22 歳になる(独立する)までの 4 年間の生活費は、現在の日常生活費の 70%とし、長男 D さん独立後の期間における妻 B さんの生活費は、現在の日常生活費の 50%とする。
- ② 長男 D さん独立時の妻 B さんの年齢における平均余命は 35 年とする。
- ③ A さん死亡時の住宅ローン(団体信用生命保険加入)の残高は 2,000 万円とする。
- ④ A さんの葬儀費用等は 300 万円とする。
- ⑤ 子ども 2 人の教育資金と結婚援助資金の総額は 800 万円とする。
- ⑥ 妻 B さんが受取る公的年金等の総額は 5,000 万円とする。
- ⑦ A さんの死亡退職金見込額と保有金融資産の合計額は 1,500 万円とする。
- ⑧ 現在加入している生命保険の死亡保険金および満期祝金は考慮しないで計算すること。

- 1) 209 万円
- 2) 1,908 万円
- 3) 3,908 万円